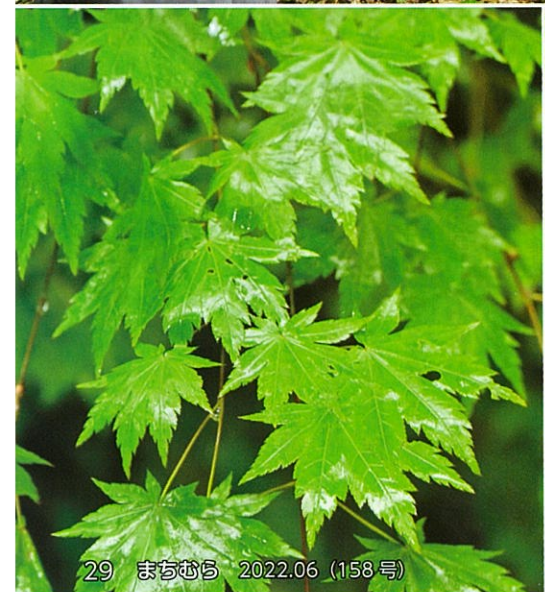


森と人が出会い 育つ里山を

富山県富山市
NPO法人きんたろう倶楽部





富山市中心部の近郊にある呉羽(くれは)丘陵は、東側は呉東、西側は呉西と呼ばれ、古くから富山県の歴史や文化を二分する象徴的な境界となっている。

城山145mを最高点に、南西から北東に長さ約7km、幅最大2kmほどの丘陵は、富山県から紀伊半島へと続く野鳥の通り道でもあり、145種の鳥類が認められている。昆虫類・魚類・両生類・爬虫類・哺乳類など生態系上重要な生物が認められ、絶滅危惧種のホクリクサンショウウオも生息するなど、都市近郊の貴重な自然環境として市民に親しまれている。

呉羽丘陵の自然環境の保全と市民への普及促進の活動に取り組んでいるのが「NPO法人きんたろう倶楽部」(理事長:二階堂敏雄さん)。5月上旬、同会が行う「くれは里山ナビゲーター(以下、くれはNAVI)養成講座・植生編」に同行した。

この講座は、呉羽丘陵のガイドとして活躍する「くれはNAVI」となる人材を養成するもの。呉羽丘陵の植生、野鳥、地域の歴史を学んだり、案内方法の実習、野外活動リスクマネジメント講習、救命救急講習などを学ぶことを要件として「くれはNAVI」に認定する。市民ボランティアの活躍の場として機能している。

本日の植生編の講師となる佐藤卓さん(日本海植物研究所所長)の案内により、10名の参加者は遊歩道(フットパス)沿いの樹木をチェックしながら、フットパス周辺の植生の概要をつかんでいく。麓から稜線までのおよそ500mが調査対象だ。

「エノキ、1」「ユズリハ、2」「ヤマハゼ、2」など、参加者同士で声を出し合いながら確認し、調査票に記録する。1は高木で太陽の光が当たり、2は中低木を意味するそうだ。

樹木の違いを見分けるのは難しくそうだが「自分で特徴を見つけたり、実際に触ってみると覚えやすい」とアドバイスも行う。

「ウワズミザクラの語源を知ってますか?」と講師の佐藤さんが参加者に問い掛ける。昔は、亀の甲羅を焼く占いにこの木の上面を掘って燃料としていた。その「ウワミゾ」が転じたものだという。あいにくの雨模様の中はあるが、こうした話に思わず引き込まれる。参加者はやがて「呉羽丘陵フットパス月いちウォーク」などのイベントでガイドとして活躍する。里山の魅力をどう伝えるか、貴重なヒントになったに違いない。参加者の男性は「普段は竹林整備活動に参加している。この養成講座に参加することで、自分の活動の質をさらにあげていきたい」と話す。

NPO法人きんたろう倶楽部は、平成16年に富山県内で相次いだ熊の異常出没をきっかけに、その原因の一つである里山の荒廃を改善しようと、平成18年に市民有志でボランティア組織「きんたろう倶楽部」を設立。平成23年にはNPO法人としてスタートした。「森づくり」「人材育成」「地域交流」「里山の利活用」を活動の主なテーマとして、竹林整備や植樹活動のほか、フットパスウォーキング、くれはNAVI養成講座、小学生への環境教育、森のクラフトづくり教室などを実施している。中でも、毎年春に実施する「市民竹林整備ボランティア」では、平成17年から令和3年まで(当初は市が主催。きんたろう倶楽部が事務局を引き継いだのは平成27年から)、17年間に延べ3,6ha、約2500人の参加を得ている。

また、先述の「呉羽丘陵フットパス月いちウォーク」は、地域関係団体と呉羽丘陵フットパス推進会議を設置し、きん



たろう倶楽部が事務局を務めて毎月実施する。呉羽丘陵の植生の豊かさと富山の歴史に触れることができるイベントとして、平成30年から令和4年3月までに47回開催（うち8回は警報・感染症拡大等で中止）し、延べ5143人の参加を得ている。

同会の活動はこの5月だけでも12回行われており、それだけに市民の参加を募集している。これだけ多くの参加者が集まる原動力は何だろう。同会事務局長の鈴木さんは、近年の里山への関心の高まりを要因の一つとして挙げる。そして「趣味の領域ではなくボランティアとして参加し、呉羽丘陵の自然保全活動に担い手として参加するようになることで、里山を守るという使命感が生まれてきている」と、持続的な里山保全活動が市民の間に根付きつつあることに手応えを感じている。

取材の最後に鈴木さんから、同会が最近作った手作り感溢れる品を見せてもらった。一つは小冊子「歩いてみんまいけ呉羽丘陵」。呉羽丘陵の花の見どころや古墳の数々、立山連峰の眺望ポイントなどを、植生調査で歩いた経験を盛り込んだものだ。もう一つは、里山の木の枝を手掘りで作ったクラフト作品の鉛筆。太さも傾きも1本ずつ違うクラフト鉛筆を手にとると、その風合いに里山の恵みを感じられるようだ。

呉羽丘陵の多様な魅力を同会の多様な活動が受け止めている。一人一人が胸の中で持つ「何かしたいこと」が掘り出されていくのかもしれない。

【連絡先】

NPO法人きんたろう倶楽部
富山県富山市西金屋 6717 富山市くれは山荘
Tel 076-434-1316 メール：info@kintaroclub.net